

## 寒冷地での燃料エア抜作業について

### ■対象モデル

GH11 エンジン搭載の2022年型モデル クオン ~ (除雪車は除く)

車体番号: JNCM※※※※※U074931 ~

※マークは、車両により異なります。

右側より6桁の下線部分の数字が記載より大きい車両が対象となります。

### ■背景

寒冷地で燃料プライミング ポンプが硬くエア抜き作業が困難な場合があります。  
この場合の、対処方法の展開をします。

### ■内容

燃料プライミング ポンプ部の内部に使用しているゴム部品が極低温状態下において硬くなる場合があります、ポンプを押すことが困難になるケースがあります。

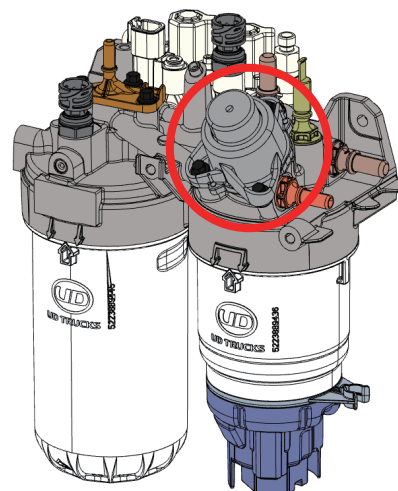
なお、通常運転時の走行には支障はありません。

### ■具体例

燃寒冷地にて、ガス欠等を原因としたエア抜き作業において  
エア抜き前に1-2時間以上放置した場合。

### ■必要な対応

燃料プライミング ポンプ部(右図赤丸部分)を温めた上で、エア抜き作業を実施する。



### ■温める手段(例)

- お湯をかけて温める  
※お湯をかける際はやけどに十分注意してください。
- 温風で温める(工業用/家庭用ドライヤーにて温める。)  
※使用する際は100℃以上(人の手で触れられない温度以上)にならないようにしてください。

### ■行ってはいけない対処方法

解氷スプレー

：燃料プライミング ポンプに損傷を与える可能性があります。

直火での温める行為(ガスバーナーなど)

：火災のリスクがあります。

### おことわり

メンテナンスにおいて、UDトラックスが指定する整備条件やメンテナンスノートに記載の点検整備を怠ったために生じた故障・事故については、保証の対象になりませんのでご注意ください。